

さかながながな

NEWS LETTER SAKANAKANA AUTUMN 2019

CONTENTS

- 1 特集
特別展「カラフルコレクション～けんらん きれい絢爛華麗な水の生き物たち」
- 3 水族館トピックス
- 5 水族研究最前線 ダーウィンの箱
自然界でのシャチ研究と水族館の関わり
わたしのスケッチブック
- 6 ボランティア便り／水族館スクールレポート
- 7 アクアインフォメーション
館長就任 ごあいさつ

Vol.103



特集
特別展

「カラフルコレクション～絢爛華麗な水の生き物たち」

写真1 会場の風景(前面)。とてもおしゃれな雰囲気です！

飼育展示第一課 坂岡 賢

生物の中には鮮やかな体色や独特の模様を持つものがあり、時に人はその派手さや奇抜さに驚きや感動を覚えます。

今回の特別展では、「カラフルコレクション～絢爛華麗な水の生き物たち」と題して、派手なデザインを持つ生物を展示しています。

展示のねらいについて

生物は実にいろいろな体色や模様をしており、それを眺めるたびに私たちは、その美しさに魅了されます。さらに、生物柄をモチーフにしたファッションアイテムは世の中に数多く存在しています。今回の特別展の企画では、生物の体色や模様を人間の持つ美意識やおしゃれ(ファッション)感覚で表現してみました。会場全体はファッション雑誌の見開きをイメージしてデザインしています(写真1・2)。色とりどりの服、帽子やバッグなどが載っているおしゃれなファッション誌の紙面の中を、カラフルな魚などが泳いでいるなんて、とても面白いと思いませんか？これらのデザインやイラストは、実在する水に暮らす生物をモチーフにして、全て飼育係が自ら描きました。イラストの基になった生物を探すのも楽しいかもしれません。

生物の持つ様々な体色の意味

水に暮らす鮮やかな体色を持つ生物は、調べれば調べるほど多様性や奥深さがあることが分かりました。例えば、カラフルな模様がとてもキレイなウミウシの仲間は、体内に毒をため込み、堂々と姿を見せることで『毒を持っているぞ!』と敵に警告します。

サンゴ礁に暮らす魚はとてもカラフルな色や奇抜な模様をしています。目立つ色や模様をしていると外敵に見つかりやすくなりそうですが、色彩豊かなサンゴ礁の風景に身を隠すには、華やかな姿のほうがかえって目立ちにくいようです。また、サンゴ礁に暮らす魚の種類はとても多く、色やわずかな模様の違いで同種かどうかを見分けていると考えられています。

雄が雌よりも体色が派手な生物も多いです。雄が持つ体色の派手さはその雄の優秀さを表していると考えられ、多くの雌と婚姻関係を持つことができます。繁殖して生まれてきた子どもが雄の場合は、やはり父親譲りの派手さとなり、雌の場合は母親譲りの派手好きとなり、世代が進んでも雄の派手さはしっかりと維持されます。

水の世界にもヒョウ柄をした生物が多くいます。意外ですが、ヒョウ柄は生物が暮らす環境によってはむしろ風景に溶け込み目立たなくなる効果があります。つまり、ヒョウ柄によって水底の砂地などで巧みに身を隠しているのです。

特別展で見られる派手で奇抜な生物たち

派手で奇抜な体色と言っても、本当にいろいろな種類があります。今回の特別展では、さんざん悩んだ結果、「しましま系(ストライプ)」



写真2 会場の風景(側面)。ファッション雑誌を見開いたように(6ページ分)、折り目がついています。

「鮮やか系(ヴィヴィッド)」、「斑点・網目・ヒョウ柄系等(ドット・チェック・レオパードetc.)」の3つに分けて、生物を選定し展示することになりました。ここからは、それぞれのカテゴリーでのおススメの生物を簡単にご紹介します。



「しましま系(ストライプ)」な生物たち

ニシキヤッコ

和名の錦、英名のregal(堂々たる)にふさわしい豪華な色彩です。ニシキヤッコのようにサンゴ礁域で暮らす魚はとりわけ色彩豊かなしま模様です。こんなに派手な模様もサンゴ礁の中では隠ぺい色になってしまいます。また、しまの数や色によって自分の仲間を見分けているようです。



フリソデエビ

サンゴ礁域に生息します。大きなはさみ脚が振袖のようです。ヒトデを好み、毒のあるオニヒトデも食べます。派手な模様は警告色とされています。

アデヤカキンコ

西太平洋のサンゴ礁域に生息しているナマコの仲間です。その名の通りあでやかな紫色の体をしており、鮮やかな赤い触手を持ちます。触手を水中に広げ、流れてくるプランクトンなどをひっかけて食べています。危険を感じたり、死にそうになるとサポニンという毒を出します。

「鮮やか系(ヴィヴィッド)」な生物たち

最後に・・・

まずは、生物が持つ様々な体色や模様を見ていただいて、“おしゃれだな”とか“キレイ!”と感じていただければ特別展としては十分目標達成です。そんな中で、生物がそのような体色を持つようになったのは?・・・理由や仕組みについて少しでも興味を持っていただければさらにうれしいです。この特別展は来年1月19日まで開催中です。

水族館トピックス



5,000万人目の入館者は「名古屋港水族館は初めて」という横浜市から来られたシャチ大好きな齋藤暖くん(左から3人目)でした。

入館者5,000万人達成！ ～今こそ、「原点回帰」を～



令和元年8月2日、記念すべき入館者5,000万人を達成しました。平成4年10月29日に南館がオープンしてから26年と9か月での記録達成となりました。

4,000万人から4,500万人に比べて、4,500万人から5,000万人のほうが約5か月早く達成しました。これは近年の「ごまちゃんデッキ」や「くらげなごりうむ」の新設、「ウミガメ回遊水槽」のリニューアル、特別展の開催など、新たな魅力を創出してきた成果といえます。

こうして展示施設や展示手法を積極的に改良・改善したことにより、多くのお客様にご来館いただき、この記念すべき5,000万人が達成できたものと深く感謝申し上げます。引き続き、職員・スタッフ一同、お客様の満足度を高める活動を積極的に進めていきます。

また、5,000万人を達成した今こそ、名古屋港水族館の「ありがたい未来」「楽しいその先の水族館」を見越したビジョン、目標設定もしっかりと作り込んでいく必要があります。開館時への「原点回帰」、すなわち、今自分がしている物事の出発点に立ち戻り、魅力あふれる名古屋港水族館にするための歩みをこれからも進めていきます。

理事長 森 俊裕

新聞・テレビ・ネットで 話題沸騰!! “シワヒモムシ”



2019年6月から7月、全国20の水族館・動物園が参加して、それぞれイチオシの「へんないきもの」を挙げ、WEB投票によりナンバー1を競う「へんないきもの大王タイトルマッチ」が開催されました。当館は“シワヒモムシ”で参戦しました。“シワヒモムシ”は紐形(ひもがた)動物に属し、その名の通りシワシワなヒモのような生物で、ゴムのように伸び縮みます。南極を中心とした浅海から深海に生息し、主に動物の死骸を食べています。

この“シワヒモムシ”は1991年に飼育係が南極で採集してきました。見た目が地味ですが、餌のアジを体の先端にある口を伸ばして丸のみします。その姿が気持ち悪く、展示できないということで20年以上もバックヤードで飼育されていました。近年は一風変わった生物が注目されるようになり、数年前から展示を始めました。今回のイベントへの参戦で脚光を浴び、メディアで話題になりました。

残念ながら「タイトルマッチ」の結果は6位。ナンバー1は逃してしまいましたが、気持ち悪さではナンバー1だと思っています。

飼育展示第一課 安藤 友佑



“シワヒモムシ”(学名: *Parborlasia corrugatus*)。なんと、名古屋港水族館で最も長い間飼育されている生き物です。“シワヒモムシ”は仮称で、正式な和名はありません。



黒潮大水槽を群れて泳ぐスマの幼魚



いけすからは疑似餌で釣り上げました。

愛媛県から「スマ」の幼魚を輸送しました



7月26日に南館の黒潮大水槽に4年ぶりにカツオやマグロの仲間である「スマ」を搬入しました。今回搬入した個体は愛媛大学南予水産研究センターと愛媛県水産研究センターが新たな養殖対象魚種として完全養殖の研究を共同で進めて得られた人工育成魚です。

前回搬入した時は、体重500g程度の個体を輸送しましたが、今回はできるだけ多くの個体を一度に輸送する目的で全長約20cm、体重約100gのこれまで当館が輸送した経験がない小型の幼魚を100匹輸送しました。大型の活魚車をチャーターし、愛媛県南宇和郡愛南町から約640kmの距離を約10時間かけて輸送しました。輸送中に数匹が死亡してしまいましたが、残りの個体は良い状態で水槽に搬入することができ、搬入直後に与えた餌もよく食べました。

黒潮大水槽のメイン魚種であるマイワシと変わらないような大きさですが、この記事が皆さんが読まれるころにはある程度成長した群れを見ていただけたと思います。

飼育展示部 春日井 隆

座間味村特別展を開催しました



7月21日から9月1日までの夏休み期間中に、『世界が恋する海～座間味村特別展～』を開催しました。

これは、沖縄県座間味村の主催で、観光の魅力を実効的に県外にPRするために私たち水族館職員も座間味村を訪れ、そこで体験した楽しさや感じたことをお客様に伝えるという特別展です。座間味村は、ザトウクジラのホエールウォッチング、ウミガメと一緒に泳げるビーチ、そしてカラフルな魚やサンゴなど自然の魅力にあふれています。実際に海に潜ってみれば、ブルーに輝く水面と想像を超えた透明度に誰も感動するはずですよ。

この特別展では会場を「旅行雑誌」に見立ててデザインしました。座間味村のある座間味島は那覇市の泊港から高速船に1時間乗るだけで到着できます。難しい乗り換えもありません。この特別展を見た方が座間味村をもっと身近で行きやすく感じ、気軽に訪れるきっかけになれば幸いです。

営業広報課 木部 悟



休憩コーナーでもある展示会場。ベンチに座って旅行雑誌風の特大パネルに入っているお客様を見かけるとうれしくなります。



自然界でのシャチ研究と水族館の関わり

飼育展示第三課 神田 幸司

飼育や展示に役立てるために野生のシャチを観察する生息地調査を、昨年同様に本年も北海道シャチ研究大学連合(Uni-HORP)の調査船に同乗させていただき実施しました。場所は世界自然遺産の知床半島、北海道羅臼町で、期間は5月24日から26日でした。羅臼町のある根室海峡には初夏にシャチが集まってくることが、Uni-HORP等の研究でわかってきています。今回の調査は晴天に恵まれ、多くのシャチを観察することができました。群れをなして泳ぐシャチ、船のまわりでくつろぐシャチ、白い部分がまだオレンジがかった小さな子ども、体長8mはあろうかという大きな雄。あるとき2頭で触れ合うシャチを観察していると、ふと疑問がわきました。このシャチは何歳なのか？親子で触れ合っているのか？若者同士の遊びなのか？何か意味のある社会行動なのか？

シャチは水中で生活しています。時には何百mも潜水します。ほとんどの場合、私たちは呼吸のために浮上しているシャチの一部を観察しているだけなのです。自然界では意外なほどに、目の前にいるシャチが何をしているのかわかりません。

Uni-HORPのメンバーである常磐大学の中原史生教授はシャチの音声と行動の関係を研究されています。長年にわたり膨大なデータを収集されましたが、広い海では貴重な瞬間を記録するチャンスは実はそれほど多くはありません。共同研究として中原教授は名古屋港水族館でもシャチの行動観察と音声録音を行いました。水族館は海と比べると限られた空間ですが、動物の行動は観察しやすく、また動物の履歴(性

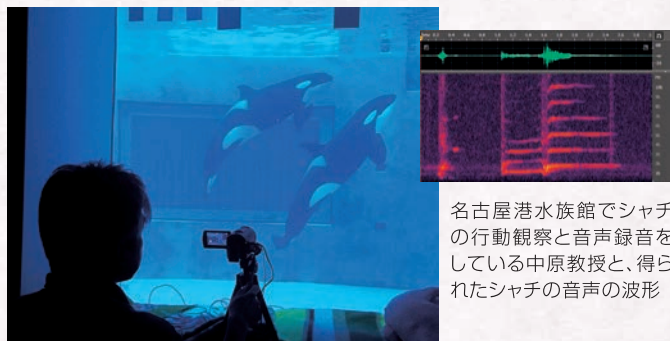
触れ合っている2頭のシャチ。水中ではどのような行動をしているのでしょうか。



およそ30頭にもなるシャチの大きな群れ

別、年齢、家族構成など)は明らかです。これらの利点を生かしたデータを集中的に集めて、自然界での研究を補完することを目指しています。

水族館での研究が野生のシャチの研究に役立ち、野生での研究が水族館のシャチの飼育に役立つ。そして水族館の展示・教育活動がシャチに対する関心を高め、シャチやその生息環境の保護につながる。名古屋港水族館はそのような「つながり」を目指して活動しています。



名古屋港水族館でシャチの行動観察と音声録音をしている中原教授と、得られたシャチの音声の波形

この生息地調査は日本学術振興会の科学研究費補助金 基盤研究S(代表：友永雅己 京都大学豊長類研究所教授、15H05709)の支援を受けて実施しました。

わたしのスケッチブック

経理課 村田 英之

【ホタテガイ】

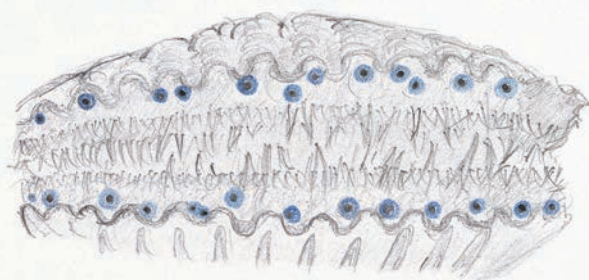
小学生のころ、たまたま読んだ図鑑が原因でトラウマになったことがありました。

それは、貝の図解でした。

目や口に見える外とう膜はまるでエイリアンのようで、コレを今まで食べていたかと思うとゾツとしたものです。

この記憶が原因で、20歳ごろまでホタテや大アサリなど大きい貝類が食べられませんでした。

たこころる 青い目か なんとも不気味です。
食ると美味しいのに、生きてる時は怖いんです。





南館2階

「ヘルメット型の観察窓」

『日本の海』コーナーにはヘルメット型の観察窓がついた水槽があります。水槽の下から突き出た観察窓から顔を出すと、水中にいるような不思議な感覚になります。特大のウツボやイセエビ、サクラダイなどが間近にせまり、海に潜らなくても、誰でも簡単にダイビングをしたときのような体験ができるのです。お母さんと一緒に見ることが難しいので、はじめは怖がる子もいますが、ぜひ一度のぞいてみて、水中の世界を味わってみて下さい。



▲水槽の中は岩礁の水中風景が再現されています。



水族館スクールレポート

水族館体験スクール「君もドリトル先生になれるか!」を開催しました

学習交流課 堂崎 正博



「君もドリトル先生になれるか!」は小学生とそのご家族(グループ)が対象で、飼育係がバックヤードを案内するスクールです。飼育係の間では「キミドリ!」と略してしまうほど、水族館ではすっかり定着したイベントとなりました。毎回、飼育係が様々な工夫をして、ふだんは見られない飼育の“裏側”を楽しく皆さんに紹介しています。

今年は夏休み期間に1日2回、全16回実施しました。長期休暇中ということもあり、応募者数は延べ4,269名(重複申し込みあり)で、当選者は613名、倍率約7.0倍の狭き門でした。愛知県内からの応募

が多く、遠くは北海道や海外在住の方からも応募メールをいただきました。

イルカ・ベルーガ・シャチの鯨類をはじめ、ペンギン・ウミガメ・黒潮大水槽などのテーマで実施しました。バックヤードには大掛かりな機械や狭い通路、たくさんの階段があり、大人でもくたびれてしまうようなルートです。小学生の皆さんは元気いっぱい歩いて夏休みの思い出を作ってくれたようです。

また来年も夏休み向けに企画しようと思いますので、皆さんふるってご応募ください。



▲ウミガメのスクールの様子。2017年9月に水族館で誕生したアカウミガメを触っていただきました。



▲「カメ類繁殖研究施設」は水族館に併設された無料観覧施設。普段はガラス越しの観覧ですが、中に入れるのはこんな時だけ。子ガメの飼育水槽や「人工ふ化場」を見学しました。



表紙生物「アオウミガメ」
Hypselodoris festiva
体長30mmまで、本州・九州などの磯の浅いところに生息し、岩の上にいるカメノブを餌とします。アオウミガメにすると怪獣みたいですが、磯で泳がせる可憐な姿は私たちをとても幸せな気持ちにしてくれます。

催し物

7月13日 特別展「カラフルコレクション～絢爛華麗な水の生き物たち」開催
(～令和2年1/19)



ニシキテグリ

20日 「サマーナイトアクアリウム」開催(～9/1)
夜8時まで営業
イルカのナイトパフォーマンス、シャチの公開トレーニング、子ガメとのふれあい など

7月21日 「世界が恋する海～座間味村特別展～」開催(～9/1)
8月3日 「AQUA LIVE! in ミッドランドスクエア2019」開催(～8/18)
3・4日 「お泊り水族館」開催 計11組36名参加

6月9日 【水族館スクール“もっと知りたい! ダーウィン教室”】
「知ればもっと好きになる!? ペンギンあれこれ」 小4～6 15名

【水族館スクール“君もドリトル先生になれるか!”】
7月24日 「イルカ」 28組74名(13組36名、15組38名)
28日 「黒潮大水槽」 25組70名(12組36名、13組34名)
31日 「イルカ」 27組71名(13組36名、14組35名)
8月4日 「ペンギン」 22組67名(11組33名、11組34名)
7日 「シャチ」 25組72名(13組35名、12組37名)
18日 「ウミガメ」 22組64名(11組31名、11組33名)
21日 「イルカ」 25組72名(13組38名、12組34名)
25日 「黒潮大水槽」 21組61名(11組31名、10組30名)
※毎回2回実施、参加は小学生とその家族(グループ)

生物の出来事

7月26日 4年ぶりにスマ100尾を愛媛県から黒潮大水槽へ搬入
8月17日 南極昭和基地から初めて搬入した魚類2種を展示



キバゴチ(日本初展示)



ショウワギス

6月25日 【季節展示】
七夕展示「七夕にちなんだ海の生き物～海星(ひとで)～」開催(～7/7)
カワテブクロ、アカヒトデ、コブヒトデ
7月2日 「金魚展示・涼」開催(～9/1)
琉金、キャリコ琉金

来訪者

6月11日 金城学院大学 岩崎公弥子 教授
19日 三重大学 森阪匡通 准教授
7月11日 京都大学 友永雅巳 教授
16日 浜名湖体験学習施設 ウォット 加藤 修 館長
17日 愛知教育大学 大鹿聖公 教授

7月21日 座間味村 宮里 哲 村長
23日 三重大学 吉岡 基 教授
8月28日 座間味村 宮平真由美 副村長
31日 京都大学 市川光太郎 准教授

講演・その他の出来事

6月17日 南知多町立大井小学校 磯の観察会 70名
吉井 誠・中嶋清徳
22日 第14回国際エンリッチメント会議(京都市)でポスター発表
「Finless porpoise project in Nagoya port」 神田幸司
27日 新館長 栗田正徳 就任
7月4～5日 第3回野生動物保全繁殖研究会(横浜市)でポスター発表
「飼育下エンペラーペンギンの交尾期における行動パターン」
材津陽介
8月2日 入館者5,000万人達成
15日 台風10号の影響のため午後から臨時休館
19・20日 小学4年生国語教科書「ウミガメの命をつなぐ」
名古屋市教員向け 著者(松田 乾)講演&
バックヤード見学会実施 計18校31名参加

7月3日 【講演】
名古屋市高年大学鯉城学園(名古屋市) 21名
「ウミガメの命をつなぐ」 吉井 誠
31日 熱田緑陰教室(名古屋市) 260名
「ウミガメについて」 吉井 誠

【職場訪問・館内レクチャー】
19件 849名

【職場体験】
6件 20名

スマホサイト
<http://www.nagoyaaqua.jp/sp/>
(なお、一部の機種でご覧いただけない場合があります)



❖ 館長就任 ごあいさつ

名古屋港水族館 館長 栗田 正徳

6月27日に名古屋港水族館の4代目の館長に就任しました。私は平成元年(1989年)に行われた第1回名古屋港水族館採用試験の合格者として就職いたしましたが、試験採用の職員が館長職を務めるのは今回が初めてのことです。「生え抜き」が館長を勤めることには功罪あると思いますが、令和元年という節目の年に名古屋港水族館もこれまでの歴史をよりどころとしながら、新たなスタートの年したいと思います。水族館が皆さんにとって、身近な自然を知り大切にすることをはぐくむ場所であり続けるために何ができる

か考えていきます。

機関誌「さかなかな」は水族館職員が日ごろ何を考え、何をしているかを皆様に伝える情報発信の“場”です。職員一人一人が情熱のこもった文を書き、編集者がその情熱を受け止めつつ、伝わりやすいように校正し、時には書き直しを指示します。私自身、20数年、「さかなかな」愛読者であり、書き手であり、時に編集者でした。これからは編集の責任者として「さかなかな」が水族館の魅力を発信し続けられるように努力してまいります。

ニューズレター さかなかな Vol.103 2019年 AUTUMN
発行/公益財団法人 名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館
〒455-0033 名古屋市港区港町1番3号 TEL.052-654-7080
URL <http://www.nagoyaaqua.jp>
本誌の掲載記事、写真等の無断複製・複製転載を禁じます。